

南アランド円は史上最安値を更新

2020年3月12日

二宮 圭子
シニアFXマーケットアナリスト
SMBC信託銀行
投資諮部

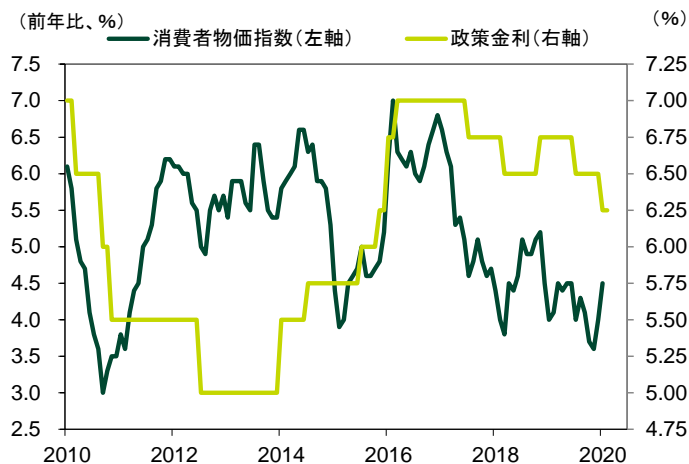


新型コロナウイルスの感染拡大に端を発した金融市場の混乱は、産油国による協調減産の協議決裂でさらに悪化した。石油輸出国機構(OPEC)加盟国・非加盟国による「OPECプラス」が6日の会議で協調減産を3月末で解消すると表明。9日の市場では原油先物価格が一時30%超の暴落、NY株式市場は主要株価指数の急落で一時的に売買が停止されるなど、金融市場は波乱の展開となった。リスクオフ色のなか資源国・新興国通貨の下落は顕著で、南アフリカ(南ア)ランドは対ドルで2016年1月以来の南アランド安・ドル高水準となる17南アランドちょうどを付けた。対円はドル円が101円台後半へ急落するにつれ、6.01円台前半と史上最安値を更新した。

南アの景気低迷は続き、昨年10-12月期の実質GDP成長率は前期比年率1.4%減と2四半期連続でマイナス成長に陥り景気後退局面に入った。2019年通年の成長率は0.2%と前年(0.8%)から減速。ラマポーザ大統領は2月13日の施政方針演説で景気停滞と雇用悪化を認め、財政再建や電力危機への対応に再生可能エネルギーの早期確保することを重要課題に挙げた。同26日にはムボウェニ財務相が新年度の予算案を発表。向こう3年間で公務員給与を総額1602億南アランド削減する歳出減と、燃料・たばこ・酒税の増税による歳入増の方針を示した。ただ、国内で電力供給の9割以上を占める国営電力会社エスコムは原発問題で供給削減を発表したばかりで、景気先行きへの懸念は拭えない。2020年については回復に向かうものの、主要貿易相手国の景気減速も相まって0.9%の伸びにとどまると、財務相は前回発表時の見通し(1.2%)を下方修正した。これに伴う収支減で、新年度の財政赤字GDP比は6.8%と2019年(同6.3%)から拡大する見込み。

大手格付け会社も2月17日、国営電力会社の相次ぐ計画停電に伴う電力不足が製造業や鉱業に悪影響を及ぼすなどして、2020年の成長率見通しを昨年9月時点(1.5%)から0.7%に引き下げた。今回の政府の財政赤字見通しを受けて、3月に予定されている見直しで投資適格級の最低水準Baa3から格下げとなれば、資金流出のリスクも高まる。1月の消費者物価指数上昇率は前年比4.5%へ加速した。3月18日に発表される2月分は既往の南アランド安などによって物価上昇圧力が高まるが、南ア中銀のインフレ目標(3-6%)内に収まっていれば、景気配慮で追加利下げに踏み込む可能性も。南ア中銀は1月に政策金利を0.25%引き下げて6.25%としたが、3月19日の金融政策委員会で連続利下げとなれば、南アランド安が一段と進む可能性もある。3月12日現在、南アランドは対ドルで16南アランド台前半、対円は6.30円付近で軟調に推移しており、3月9日安値を意識したランド安への警戒感を怠れないだろう。

【図表1】 南アの政策金利と消費者物価指数



(出所)南ア準備銀行、南アフリカ統計局、SMBC信託銀行

【図表2】 南アランド円のローソク足チャート(月足)



(出所) BloombergのデータをもとにSMBC信託銀行作成